

一般会計決算に対する討論

令和元年度一般会計決算は、9月定例会最終日に認定されました。この議決に先立ち、同決算に対する討論が行われ、3人の議員から賛成意見が、2人の議員から反対意見がありました。その概要は次のとおりです。

賛成

(創政会)

●令和元年度決算では、歳入の根幹である市税が、法人市民税の大幅な減収となったものの、地域活性化応援寄附金の増収や固定経費の徹底した見直しなど、財源確保に努めた。歳出では、5つの政策を柱に、時機を逃さず積極的に取り組んだ。「都市づくり」では、企業が活発に活動を展開できる都市機能強化策を推進した。「産業の活性化」では、工業製品や農産物のブランド化などにより、産業競争力の強化や販路拡大につなげた。「地域福祉社会の実現」では、医療や介護が必要な高齢者が、住み慣れた地域で能力に応じて自立した生活が営めるよう、地域包括ケアシステムを構築した。「子ども・女性政策」では、女性の活躍を推進するため、妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援策や多様な保育ニーズへの対応を進めた。「都市の質の向上」では、防災拠点として新消防本部庁舎が完成し、災害時は十分に機能が発揮できると確信する。決算等審査意見書に記載があるように、綾瀬スマートインターチェンジ開通による地域経済効果を高めるため、交流人口の確保や地域活性化につながることを目的に、道の駅整備に向けた協議を進めることを期待する。こ

れまで以上に地域に密着し、市民目線に立った施策の実施を望み、本決算に賛成する。

●令和元年度決算の新規・拡充事業を、5つの政策に沿って評価する。「都市づくり」では、綾瀬スマートインターチェンジ事業用地内の移転完了や周辺道路の交通対策が進んだことを評価する。供用開始が当初予定から遅れているため、県や日本高速道路株式会社と連携し、一刻も早い供用開始を要望する。「産業の活性化」では、市内中小企業生産性向上のためのコンサルティング事業を行い、専門家の適切な助言により経営改善につなげた。今後も、企業ニーズを把握し、官民一体での推進を期待する。「地域福祉社会の実現」では、高齢者がいつまでも元気で、地域社会の担い手となる施策として、本市独自の多様性自発型社会参加を促進した。生活困窮世帯の中学生への学習支援は、全員が高校進学を果たしている。貧困の連鎖を断ち切るため、さらなる充実を願う。「子ども・女性政策」では、病児保育施設整備費の一部助成を行った。女性の社会進出が進み、働き方が多様化する中、社会的ニーズが高く、有用な事業と評価する。「都市の質の向上」では、新消防本部庁舎建設や災害用仮設風呂の設置など、

市民生活の安全・安心を支える事業に取り組んだ。今後の財政運営には課題が山積しているが、丁寧に向き合うことを要望し、本決算に賛成する。(公明党)

●令和元年度の歳入は、対前年度比約4億円の増となり、財政の健全化比率に実質赤字はなく、健全な財政運営がされたと評価する。市税の減収に伴う、自主財源比率の減が心配だが、地域活性化応援寄附金に力を入れるなど、新たな財源確保策を期待する。道の駅の整備は、まちづくりに大きな期待を背負うものである。アークセスに懸念があるが、魅力にあふれ、ここにしかない施設であれば、乗り越えることは可能で、道の駅本体と中身の検討が重要である。大山や富士山の眺望を生かし、何度でも行きたくなる道の駅となることを望む。地域全体で支えあう超高齢社会の実現では、認知症対応型グループホームの整備により、住み慣れた地域での生活を支援し、認知症の方や家族に大きな希望となった。運営の諸課題を抽出し、さらなる支援につなげるよう要望する。多文化共生の取り組みでは、日本語教室のさらなる支援や音声翻訳システムの充実など、言葉の壁を解消し、真の国際化に向けて大きな歩みとなった。小・中学校少人数指導では、児童・生徒への声掛けが増えることにより、学習意欲が高まった。突然の新型コロナウイルス感染症により、多くの事業が中止となったが、市民の元気を取り戻す事業の実施を願い、本決算に賛成する。(あやせ未来会議)

反対

●落合・吉岡土地区画整理事業は、地権者の反対があり、事業実施を優先して曖昧な説明を繰り返したが、地権者の意向を聞いて事業を検討すべきであった。指定管理者制度では、経費が削減できたとしているが、働く人の賃金が抑制されている。公民館などでは、高齢者団体が、部屋の使用料負担が大きいため、利用回数を減らしており、誰でも安心して利用できるような、負担軽減を図るべきである。綾瀬スマートインターチェンジ事業は、契約金額の増額が繰り返されており、さらなる費用負担が起きないことを望む。光綾公園の整備は、バラ



にはボランティアを予定している。公園愛護会への参加も少なくなる中、定年制の延長などで働く人の高齢化が進み、多くの人の参加は難しいと考える。道の駅は、事業当初から、交通量や進入経路、用地取得、運営体制などの問題点を指摘しており、事業賛否の判断ができる資料の公表を求める。厚木基地への児童の留学交流は、米軍基地の問題点を明らかにし、友好交流を行うべきではない。硫黄島での着艦訓練や日米合同パラシュート降下訓練に、厚木基地が組み込まれており、反対の意思を表明することを求め、令和元年度決算に反対する。(日本共産党)

令和元年度各会計の決算規模

会計名	歳出決算額	昨年との比較		
		増減	伸び率	
一般会計	292億9,896万円	4億3,002万円	1.5%	
特別会計	国民健康保険事業	87億6,293万円	△4億6,727万円	△5.1%
	下水道事業	32億7,340万円	2億2,040万円	7.2%
	深谷中央特定土地区画整理事業	2億2,744万円	△1億712万円	△32.0%
	介護保険事業	52億6,457万円	2億8,182万円	5.7%
	後期高齢者医療事業	10億8,166万円	3,987万円	3.8%
	計	186億1,000万円	△3,230万円	△0.2%
合計	479億896万円	3億9,772万円	0.8%	



コスモス・キバナコスモスが咲いていました<陽だまり公園にて>